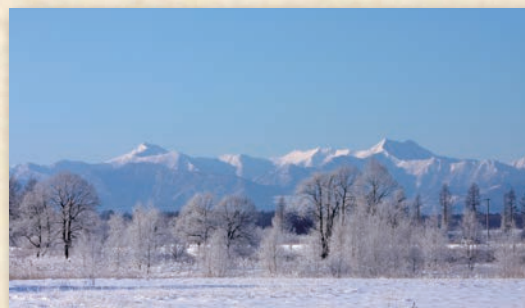


しく聞いたところなので、そのままをここに書き記しておきます。

さて、札内川からさらに十勝川本流を下っていくと、西岸にはベツチャラがあり、人家がありました。東岸にヘヨイ、幕別、サツテクマクンベツ、サツトカチなどがあり、ジロトウには人家が5軒ありました。これを過ぎると途別川で、その名にふさわしく相当幅の広い川です。右の方に沼があるエモエントウ、人家が2軒あるホロノコツチャを過ぎた辺りから川の流れは少しゆっくりになり、川幅も広くなり、ヤナギやハンノキ、ハルニレ、サルナシ、山ブドウなどがたくさん見えます。



冬の日高山脈

幕別町からは南部に連なる大山脈が見える。町名は「マクンベツ（山ざわを流れる川）」から。

稲志別川、幌内川、そして咄別川の岸には人家が10軒あります。音更川と利別川の間の原野から来ている川です。これと並んでトウロ、少し下って札内から18キロほどの位置に、

川幅約15メートルの猿別川があります。十勝川第10の支流で、その上流は歴舟川と札内川と同じ方向にあり、幾筋もある小川が合流して猿別川になっています。これを過ぎてカモキナイに人家が4軒、続いて止若があり、ここに長老のイカリカシが住んでいるというので、舟を新しく替え、荷物を積み直して案内人を新しく雇いました。

しかし、ここからは川の流れがゆっくりで特に危険なことではないといえます。イカリカシの家の西側は平野続きで



歴舟川

かつては砂金が多く取れたため、「宝の川」と称されることもある。